第一部 講演6

思春期の精神症状・月経前症候群疑いに抑肝散加陳皮半夏が奏効した一例

兵頭 麻希 先生

母と子のまきクリニック

1996年　広島大学医学部 卒業
1998年　広島県立安芸津病院 産婦人科
1999年　土谷総合病院 産婦人科
2001年　広島大学病院 産婦人科
2003年　広島大学病院 遺伝子診療部 兼任
2011年　近畿大学大学院総合理工学研究科 遺伝カウンセラー養成課程 非常勤講師
2019年　母と子のまきクリニック開院、広島大学医学部 客員准教授（併任）

はじめに

思春期女児では、女性ホルモンの分泌亢進による心身の発達・変化を迎える。社会生活における様々な事象に対して敏感となる時期であり、月経前症候群が加わることで、様々な精神症状を生じる。

東洋医学では小児期からの神経過敏や興奮に着目し、抑肝散や抑肝散加陳皮半夏、柴胡桂枝湯などが用いられる。

症　例

症　例：14歳 女児。

主　訴：イライラ、怒りやすい、落ち着きがない、学校でのトラブル、食欲低下。

現病歴（図1）：13歳（8ヵ月前）に月経が開始し、そのころからイライラがあった。新学期になり、担任の教師とそりが合わず、精神的なコントロールが困難な状況となった。部活の友人や先輩などと話をしてもイライラするなど、学校生活が困難となった。本人・母親ともに「なぜいつもイライラしているのか、分からない」とのことであった。

初診時所見および診断・治療（図2）：身長 160cm、体重50kgと体格がよく、思春期の発達も順調であった。無表情で、少し落ち着きがない様子であった。便秘・下痢はなし、多毛もなかった。発語は少ないが、質問には的確に思いなどを答えることができる。

初診時に症状と月経との関連が不明であったため、次回月経後までの日々の症状の程度の10段階評価と、食欲、その日の出来事などを記録し経過観察した。

約3週間の記録から、月経前後には症状は軽減しており、

図1　症例　14歳 女児

主　訴
イライラ、怒りやすい、落ち着きがない、学校でのトラブル、食欲低下

現病歴
13歳（8ヵ月前）に月経開始し、そのころからイライラがあり。
4月新学期になり、担任の教師とそりが合わず、精神的なコントロールが困難な状況となった。
部活の友人、先輩などと話をしてもイライラするなど、学校生活が困難となった。
本人、母親ともに、「なぜいつもイライラしているのか、分からない」と述べていた。

図2　初診時所見および診断・治療

視　診
身長：160cm、**体重**：50kg
体格がよく、思春期の発達も順調であった。
無表情で、少し落ち着きがない様子。

聞　診
便秘・下痢なし。多毛なし。
発語は少ないが、質問には的確に思いなどを答えることができていた。

診断・治療
初診時、症状と月経との関連が不明であり、診断のため次回月経後までの日々の症状の程度の10段階評価と、食欲、その日の出来事などを記録し経過観察した。
約3週間の記録から、月経前後には症状は軽減しており、月経前症候群も否定はできないが、神経症的な精神症状の方が可能性が高いと考えられた。
イライラのコントロールが困難で、不安や怒りも生じやすいことに対し、抑肝散加陳皮半夏（5g/日 朝夕食前）を投与した。

月経前症候群も否定はできないが、神経症的な精神症状の可能性が高いと考えられた。イライラのコントロールが困難で、不安や怒りも生じやすいことに対し、抑肝散加陳皮半夏を処方した。

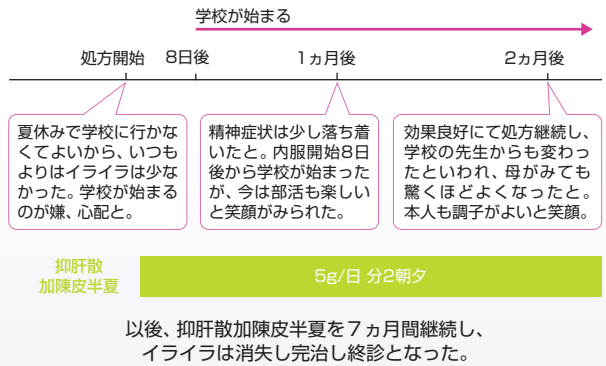
臨床経過（図3）：抑肝散加陳皮半夏の服用開始時は、「夏休みで学校に行かなくてよいから、いつもよりはイライラは少なかった」とのことであった。「学校が始まるのが嫌、心配」とのことで抑肝散加陳皮半夏の服用を開始した。

1ヵ月後の再診時、精神症状は少し落ち着いたとのことであり、内服8日後から始まった学校に登校し、今は部活も楽しいと笑顔が見られていた。

2ヵ月後は効果良好で処方継続し、学校の先生からも“変わった”と言われ、母が見ても驚くほど良くなったと本人ともども笑顔で、調子のよい状況であった。

以後、抑肝散加陳皮半夏を7ヵ月間継続内服したが、イライラは消失し、完治・終診となった。

図3 臨床経過



以後、抑肝散加陳皮半夏を7ヵ月間継続し、
イライラは消失し完治し終診となった。

考　察

本症例は思春期、初潮後の発症で、原因として内分泌学的影響や生活環境の影響などが考えられた。外来でのカウンセリングも時間をかけて行い、抑肝散加陳皮半夏が奏効した症例であった。

現在は若年でも使用可能な低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬（LEP）治療も選択肢ではあるが、本症例は神経症的な症状が主であったことから漢方治療を第一選択とした。

Discussion

木村：加味逍遙散と抑肝散加陳皮半夏の鑑別はどのようにされていますか。

兵頭：産婦人科では加味逍遙散もよく使われますが、本症例はお子さんで、イライラ、疳の虫が強く、また食欲低下もみられたため、陳皮・半夏を加えた抑肝散加陳皮半夏を第一選択としました。

木村：お子さんなどで錠剤を使われることはありますか。

兵頭：お子さんは錠剤を選択される方が多くいらっしゃいますし、服薬コンプライアンスも良好です。